

九大COIにおける ICT見守りの概要

谷口倫一郎

持続的共進化地域創成拠点・情報科学部会



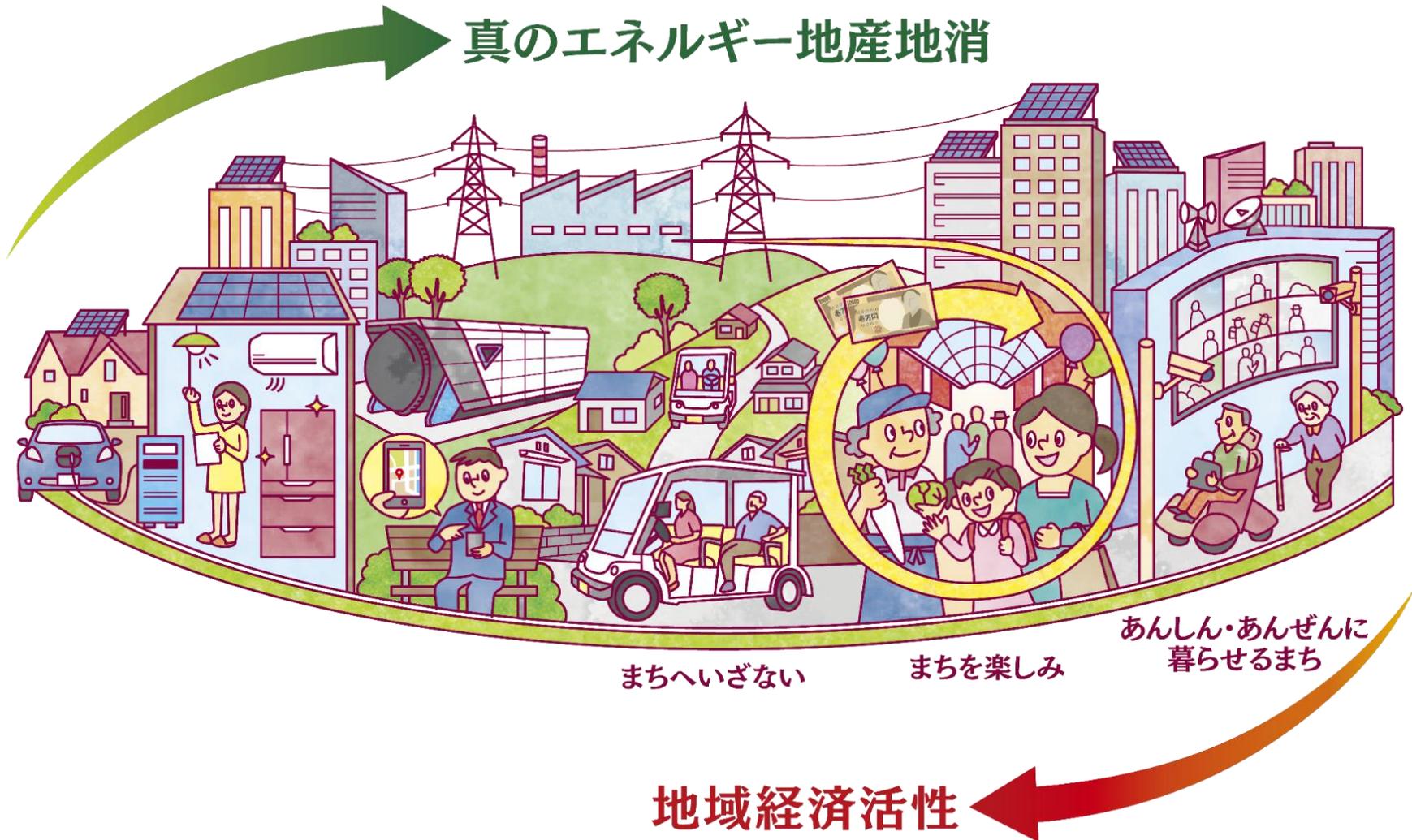
九州大学



東京大学



横浜国立大学



11 住み続けられる
まちづくりを



拠点ビジョン：あんしん・あんぜんで活力ある 持続的地域創成

2050年、人口減少、少子高齢化

→全世代がアクティブな社会環境の実現が必須！

- 人々が健康を維持し、外出して地域での経済活動に積極的に参加することが鍵



**誰もが外出しやすい／したくなる仕組みを
整え、楽しく元気に暮らせるまちを実現**

情報科学部会では**人々の外出促進**にフォーカスして他部会・参画機関と連携。これまで蓄積してきた**ICT技術を活用し、あんしん・あんぜんな移動空間を創出し、「外出したい」を増やす。**

対象エリア



街区



商店街



駅
バス停

- 交通結節点での見守りサービスの社会実装
- MaaSとの連携を見据えたAPIの開発

- 複数の交通結節点での見守りサービスの連携 (ex. 鉄道&バス)
- MaaSとの連携

2050年 (30年後)

移動に不安のない「あんぜん・あんしんまち」	郊外における公共交通機関分担率を50%以上に
訪れたい「賑わうまち」と外出意欲旺盛な人々が多数を占める社会	まち歩きを増加率の世代毎の目標値を達成

交通結節点での「身体的・心理的乗継抵抗」を軽減／「賑わい創出」によるまちに出掛ける動機付け／見守りによる「外出頻度の検出」および「行動推薦」による外出促進

モビリティとの共進化により、まちへのいざない、賑わい創出、外出促進を総合的に実現

社会実装の横展開／点から線への連携強化

九大学研都市駅等典型的な地点での社会実装

2021年 (COI終了時点)

公共交通機関利用率 (地域公共交通の活性化)	+10%
まち歩きの増加率 (歩行者通行量の増加)	+10%

2030年 (10年後)

公共交通機関利用率 (他地区に横展開)	+20%
まち歩きの増加率 (ターゲット訪問者の増加)	+20%



- 公共交通機関での移動の安心安全確立
- 運転死亡事故率の低減
- 人々のQoL向上
- 経済循環 (地域経済活性化) への貢献

普及準備完了

普及展開



協働共有モビリティ



公共交通の利用しやすさ向上 (乗継抵抗の軽減)



マルチモーダル情報提供



課題の複雑さ

あんしん・あんぜんで活力ある持続的地域創成を目指す

① 安心・安全な移動空間の創出

誰もが移動に際して苦痛を感じない仕組みをつくる。

- 交通結節点での「**身体的／心理的乗継抵抗**」を軽減

② まちの賑わい創出

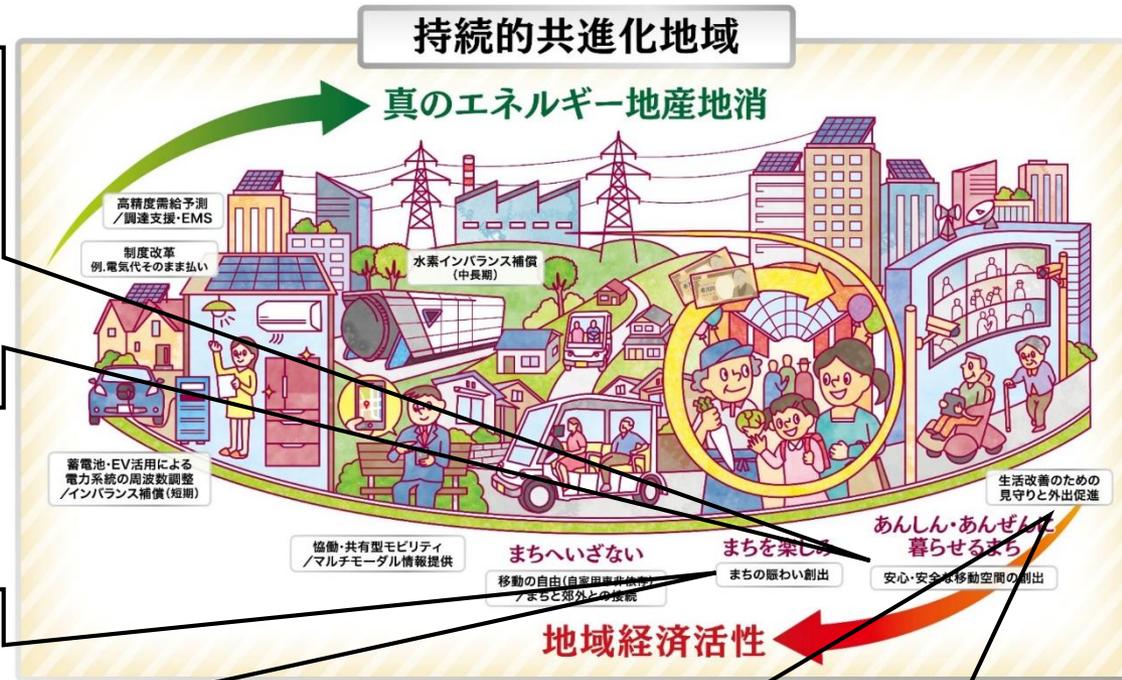
誰でもが訪れたいまちをつくる。

- 「**賑わい創出**」によるまちに出掛ける動機付け

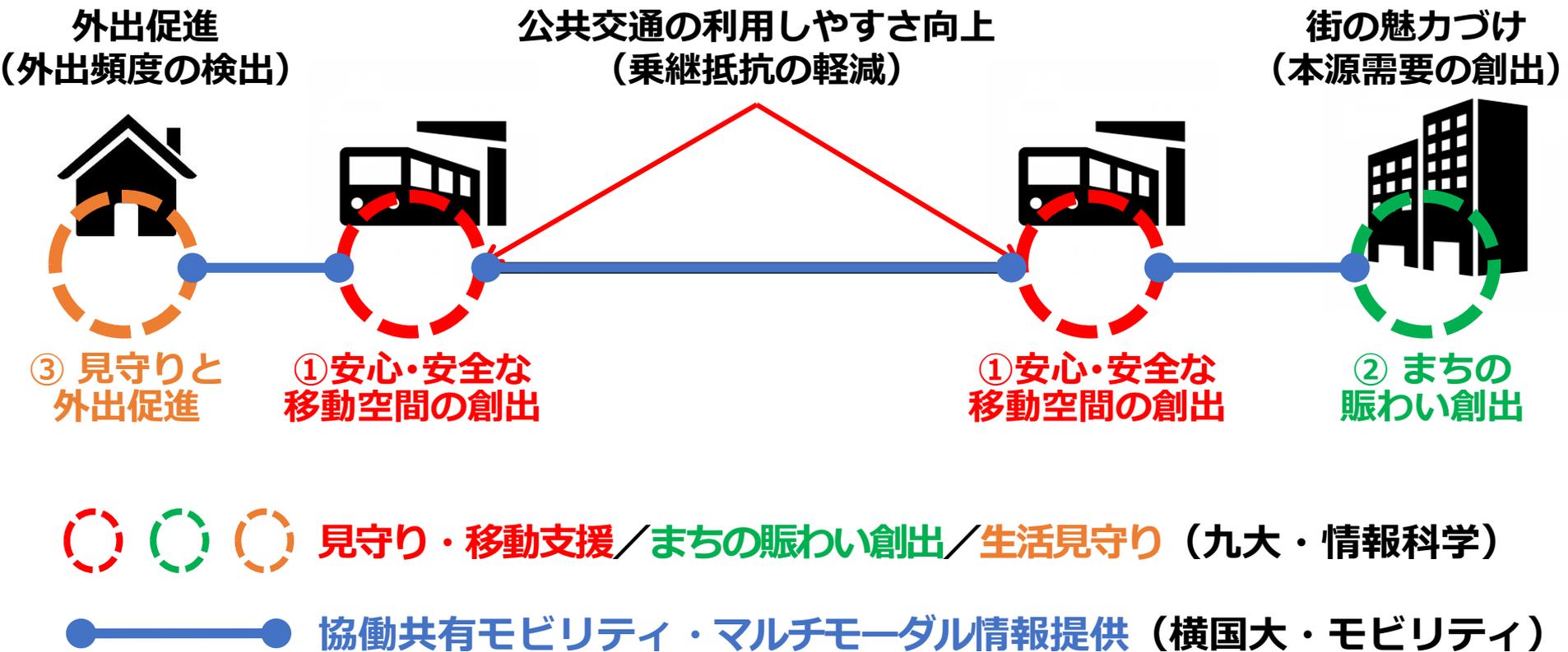
③ 生活改善のための見守りと外出促進

人々に対してまちに出る意欲を与える。

- 通常生活における見守りによる「**外出頻度の検出**」
- 「**行動推薦**」によるまちへのいざない、**外出促進**



モビリティと情報科学の共進化により 移動の問題を一気通貫に解決





① 安心・安全な移動空間の創出

- 交通結節点における乗り継ぎ抵抗の低減（日立・昭和自動車）
 - ・ 移動困難者の検知（安心安全）
 - ・ 混雑緩和（安心安全）



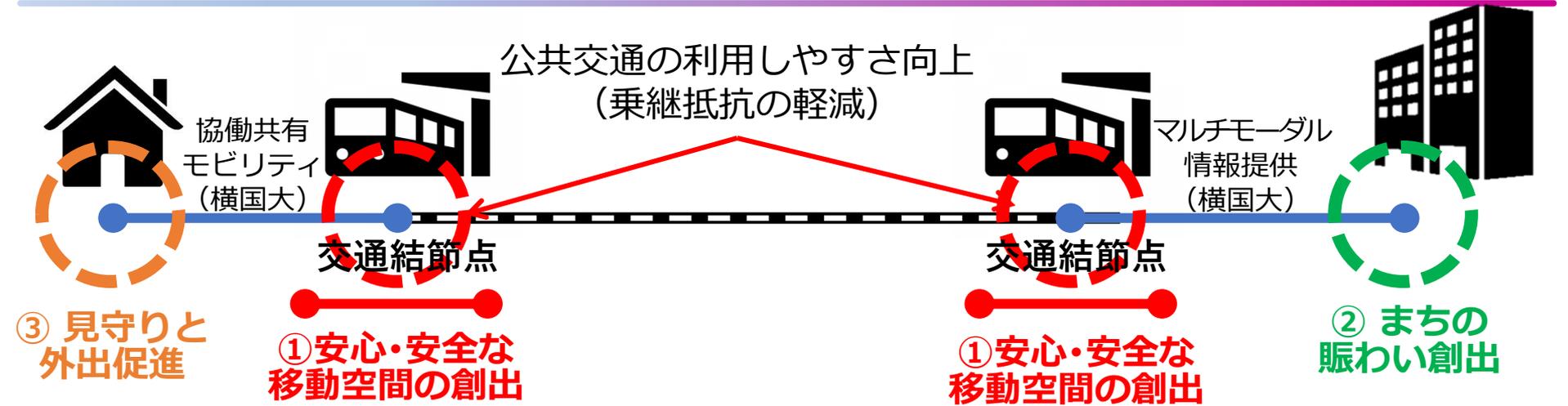
② まちの賑わい創出

- 中洲川端商店街における実証実験（NEC、YEAAH）
- 賑わい人流分析（産業数学＋情報科学）



③ 生活改善のための見守りと外出促進

- 外出頻度の検出
- 行動推薦によるまちへのいざない



	生活見守り (外出頻度の検出)	交通結節点における 移動支援	行動・購買需要の把握
使う技術	生活センシングによる外出頻度の検出・異常検知	<ul style="list-style-type: none"> カメラによる移動困難者の検知 混雑把握・予測 	人流解析による賑わいと混雑の分析
技術展開・応用	<ul style="list-style-type: none"> 屋内見守り 省エネ 	<ul style="list-style-type: none"> 移動困難者 (車椅子、白杖、ベビーカー等) の移動支援 <ul style="list-style-type: none"> バリアフリー化の促進 交通事業者の運行最適化 <ul style="list-style-type: none"> 混雑緩和 	<ul style="list-style-type: none"> 住民、来訪者の行動・購買需要の把握 防犯機能の向上